

～日本財団より助成をいただきました～



今回えぼハウスを開設するにあたり、改修工事費と福祉車両の助成を受けました。改修工事費助成については、南幌町民から愛されてきた独身寮を建築家竹原氏のデザインにより「地域の交流の場」という新しい目的をもった建物に生まれ変わらせることができました。季節によっても、またその日の陽の高さによってもその姿を変える美しい建物となりました。

車両については、ハニカムに通うスタッフの方たちの足として、時には農作業において畑までの道のりをスタッフとともにえぼっく号(!?)は進んでいきます！

日本財団からの助成のもと、多くの皆様のお力のもと、新たに始まる「えぼっく」の土台を築くことができました。これからは通われるスタッフの方々、南幌町民の方々とともに、まちのえぼハウスとして彩っていきたいと思います。

えぼっくでは

「スタッフ／サポーター」といいます！

多くの場合、施設では「利用者／職員」という言葉を用い、施設を利用する（通う）人とサービスを提供する人を表現しています。

えぼっくでは、ご利用いただくお一人おひとりが主役であり、一緒に始める、一緒に行くという視点で「スタッフ」と呼ばせていただきます。また、職員はスタッフをサポートする「サポーター」、施設長は、全体の調整役、責任者として「マネージャー」という名称を使用します。

～編集後記～

南幌町に建物をつくることになったのは昨年5月頃。1年の間に社会福祉法人の認可を取り、えぼハウスも完成。そして、この度開所パーティーを開催するに至りましたこと、多くの皆様のご協力、ご助言があってこそのものであり、誠に深く感謝申し上げます。

4月からハニカムに通われるスタッフの方、南幌町の皆様、多くの皆様とともにえぼハウスをつくり上げていきたいと思っております。

今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

(滝口)



えぼはうす News

第1号

2006年3月26日

編集：社会福祉法人えぼっく

住所：〒069-0237 空知郡南幌町栄町4丁目3-15

Tel 011 (378) 5700 (法人本部・ハニカム・囲炉裏) / Tel 011 (378) 5588 (ぷるーらる) / Fax 011 (378) 5454

分場キャンパス：札幌市厚別区上野幌3条4丁目1-12 Tel 011 (893) 1199

はじめまして！「社会福祉法人 えぼっく」です。

『えぼっく』とは・・・

時代はとまらない。次から次へと進んでいく。
よくみると、そこには一つの点。
一つの時代が終わり、また次の時代へ。新しい時代を迎えるとき。
それが『えぼっく』です。

『えぼっく』という時代に生きる組織、
あらゆる障がいに対応した新たな地域生活支援の展開をすすめる組織、
そういう組織でありたい。そう願いを込めて...

「えぼハウス」って、なに？

えぼっくの建物の名前です。

そのコトバに秘められた思いとは...



「エボック」という時代の変革を求め、これから新たな時代を迎えます。

人々が共通して求めている安心した生活はたった一人では手にすることはできません。

それは人と人が関わる中で生まれるもの。

そうした、人々が集まる場所をイメージしています。

コミュニティとはみんなの場所になるような、自由な大きな家・拠点（居住/ハウス）です。
人々の関わりから「エボック（時代）」をつくり、そして人々が安心して生活する基盤となる「ハウス（家）」となるように。
それが「えぼハウス」です。

多くの方が気軽に立ち寄りことのできる場所をめざしています。

そしてたくさんの方がいて、ガラスから漏れる明かりが街を温めるような、「あ〜ったかい」雰囲気をもつ町と一緒に行きたいと思っています。



えぼハウスを設計された方はこの方です！



氏名：竹原 義二さん 無有建築工房代表
大阪市立大学大学院生活科学研究科教授
1948年生まれ

<これまでに手掛けられた作品>

石壁の家(1991)、鴻ノ巣の家(1993)、海樺葉山(2000)等、101番目の家(2002)、
オープンスペースがーと(2005)、…100作品以上

<受賞履歴>

村野藤吾賞、日本建築学会作品選賞、通産省グッドデザイン賞、経済産業大臣賞、経済産業大臣賞、
日本建築士会連合会賞、JCD デザイン賞、インテリアプランニング賞、…他多数受賞

※JIA 登録建築家ホームページより抜粋

～設計にあたって考えたこと～

人と人の出会いの場所をつくる。

その器として、
かつて町役場の独身寮であったという建物に新たな役割を与えます。
北海道らしい建物の形はそのままに、
その横にそっと添えた新しいオープンなガラス張りの空間は、
社会(地域)がひとを包み込む、社会(地域)をひとが包み込むイメージ。

住宅のスケールが空間作りのひとつの手がかりになります。

天上の高い場所と低い場所。見渡せる場所と、ちょっと隠れられる安心できる場所。
にぎやかな場所と落ち着いた静かな場所。
ここでは、限られたスペースの中でも、
集うひとみんながそれぞれに心地よく過ごせる
たくさん居場所をつくります。

冬の真っ白な雪の中で、明るく灯った行灯は、
これからの新しい地域づくりへの道しるべになります。
町の財産である建物たちに
時代に求められる機能と用途を持たせ、
人を集める仕掛けづくりを展開していければと
構想はますます広がっていきます。

無有建築工房 竹原義二



えぼハウスはこんなところです。



「オープンスペース囲炉裏(いろり)」

ご近所の方がちょっとした打合せに立ち寄りたり、コーヒーを飲みながら語り合ったり、通りすがりに気軽に立ち寄れるようなオープンスペースです。地域の方が採れたての野菜を持ってきて、販売したり、その場で簡単に調理しての味比べ。もちろんそこでコーヒーを入れたり軽食を提供するのは、障がいのある方です。近くの学校に通う小中学生や高校生にも気軽に出入りをさせていただく。障がいのある方や地域の方が作った作品を展示するスペースも用意します。障がいある方と地域の方が自然に憩うことができる場をめざします。(6月オープン予定)

ハニカム<障がい者通所施設>

陶芸、農耕(野菜・花卉)、紙すき、アート、パソコン作業、リサイクル品回収、織物、押し花・・・等を予定。また、作業の実施にあたっては、町内の企業等と連携を図りながら実施します。(定員20名)

新さっぽろ駅から北広島西の里経由で朝夕送迎有。

身体障がい、知的障がい、精神障がいの3障がい対応型の日中活動サービスの提供をします。

「ハニカム」

ハチはすごい!

1匹1匹のハチがみんなそれぞれに働く。
すると...とお〜ってもキレイな、
六角形のハチの巣のできあがり!!

そんなふうに、私たちも一人ひとりのチカラで『みんなの場所』を作り上げていきます。



分場キャンバス

ハニカムの分場キャンバスとして、ハニカムと連携をとりながら、札幌市厚別区の地域での活動を提供します。(定員10名)

「ぶるーらる」<地域生活支援センター>

- ・短期入所事業(身体・知的・精神・児童)定員4名
 - ・地域生活援助事業
 - ・居宅介護(ホームヘルプ)事業(身体・知的・精神・児童)、訪問介護事業
 - ・障がい者にたいする相談支援・ケアマネジメント事業等
- (5月オープン予定)



「ぶるーらる」
みんなの おもい
ひとつに
なれたら いいなあ

<えぼっくイメージキャラクター>

「はじめまして、えぼっく君デス!顔はエボック(epoch)の頭文字をとってアルファベットの『e』のカタチ。いろんな動物やモノに変身できるんだ!」

